

## 第16回兵庫連盟合同野営大会 「101活動をふりかえって」

プログラム担当 副コミッショナー 森地 一夫

### 1. スカウトにとって有意義であったか

直接スカウトに聞いたわけではないのですが、猛暑の中多くのプログラムに参加する様子、本部にチケットを取りに来たときの会話からは、前向きに取り組む姿勢が見られ、有意義であったのではないのでしょうか。

ただ、プログラム内容を公開しているにも関わらず、準備をしていない(例えば、シルバコンパスを持ってきていない)班があったのは、残念です。指導者が情報を伝えていないという部分が大きいと思われます。

101活動は、班制教育と進歩制度を活かした、ボーイスカウト本来の活動です。夏季長期野営の代わりとして合同野営に参加した隊にとっては一年間の総ざらいとしての意味になったと思われますし、ひとつのイベントとして参加した隊にとってもゲームとして楽しめたのではないかと思います。

各隊では、成績を評価して、今後活かしてもらいたいものです。

なお、野営生活に関しての評価が表立ってはなされませんでした。野営大会であるならば、101活動というプログラムだけでなく、野営生活そのものも評価されるようにすべきであったように思います。



### 2. プログラムの内容はどうであったか

素材として、ボーイスカウトハンドブックが与えられ、インターネットで早期から内容を公開していたために、各地区が提供しようとしていたものが分かり、内容に大きなムラは無かったように思われます。どの活動に参加しても、十分にやりがいがあったのではないのでしょうか。

### 3. プログラムの受入態勢 (運営) はどうであったか

当日の受け入れについては、きちんとできていたように思われます。

しかし、受け入れ可能な班数が、非常に少ない地区があったために整理券発行による割り当て(抽選)制にせざるを得なくなり、参加できるプログラム数に大きな差が出てしまいました。そのため、高得点を望めないと分かっている班はモチベーションが下がる結果となりました。

受け入れ人数の少ない各コマ 2 個班のみの地区を例にとると、内容を見ると確かに大人数は受け入れられないものでした。各級ごとにペーパーテスト、実技を綿密に組んでいましたから、各級に指導者が 1~2 名(時間を計る必要がある)、受付に 2~3 名必要でしたので、指導者数からいけば確かに 2 班が限界だと思えました。それだけ内容が充実していたとはいえませんが、尼崎・西宮・姫路地区などのように、実質無制限に受け入れる地区は、広場に実技用のコースを設置して、ペー



パーテストも一斉に行うなど、少人数の指導者でうまくやっていたので、工夫次第で、多くの班を受け入れられたと思います。当初から最低受け入れ班数を指定していれば、それなりに工夫したのではないのでしょうか。

#### 4. 割り当ての方法はどうであったか

電子抽選システムともいべき Excel を使った機械的抽選にしましたが、抽選の方式をよく理解せず、ごく少数のワクだけ参加可能とした班は、全く割り当てられない状況になりました。そこで、参加可能ワク数の少ない特定の隊の班には、できるだけ多く割り付けられるように配慮しました。

ところが、配慮したにも関わらず、当該隊から割り当てが少なすぎるというクレームが付きましました。実は、申し込みが出た時点で、その地区に対し「割り当てできない」という警告までしたのですが、「隊としてはそれが関の山のように」という返事でしたので、その後クレームになると

は、地区と隊間のコミュニケーションができていないことが露呈したというところです。当該隊長には、清水副コミッショナーから当日券のことなどを説明して納得していただきましたが、当日券が使われたかという点、全くといってよいほど使われませんでした(当該隊で使われたのは1枚のみ)。地区の取り組み具合に、温度差を感じた次第です。



#### 5. 時間的にどうであったか

活動時間の 50 分を超過したために、次のプログラムの参加が遅れる状況が発生したようです。場外プログラムでは、20 分以上遅刻したために、マイクロバスの運転をお願いしていた市の方に断られて参加できない班が出ました(6 班)。

移動時間の 10 分は、特に短いとは思いませんでした。プログラムが予定通り済めば、十分移動できたと思いますし、炎天下の移動でしたが、本番のプログラムでは、体力の必要なものはほとんどなく、プログラムに入ってから日陰に入ったり座ったりして、体を休めることができていたように思います。

#### 6. 採点はうまくいったか

6 人未満の班の採点方法について、3 地区が誤解をしていて、採点が正しくできていませんでした。その問題は、隊指導者からの疑問と、採点結果を見て気づきましたので、個別に採点(計算)し直しを依頼して是正しました。その他の地区でも、同様の間違いがあったかもしれません。しかし、もしあったのとしても、採点結果として表面化しなかったために是正できていません。

その他、個人や班の得点のつけ方には、地区ごとに解釈の相違が見られましたが、修正できませんでした。

採点で大きな問題は、初級ほど点を取りやすいプログラムが多かったことです。実際、1 位を取った班はほとんどが初級で、採点方法に問題を残したといえるでしょう。



## 7. 得点のつけ方はどうであったか

今回は上位 6 つのプログラムだけの合計点(基本点)と、全ての合計点に対し 5 点当り 1 点のボーナス点との合計を得点にしました。計算はやや複雑ですが、当方で計算し、スカウトや指導者に計算を強いることはありませんでしたので、複雑と思われなかったと思われます。

ボーナス点を採用したのは、

- ・基本点だけだと、最初の 6 つのプログラムで満点を取ると「アガリ」になって、それ以降の参加が必要なくなる
- ・基本点だけだと同点が増える
- ・ボーナス点を設けることで少しでも多くのプログラムに参加しようという意欲がわく

ということが理由です。

結果論としては、どのプログラムでも満点はそれほど出ず、基本点だけでも 1 位は 1 個班に決められました。ボーナス点を設けたことにより、多くのプログラムに参加したところが有利になったのは否めない状況ですが、1 位の班は全コマ皆勤でしたので、それは評価してやるべきだと思います。

得点の中間集計をプログラム本部前に毎日掲示していましたが、第 2 サブキャンプは離れていたために、見てもらうことができなかったと思われます。活動の様子も含めて、会場内の多くの人に知ってもらえるような手段(新聞などの発行)を考えるべきだったかもしれません。



## 8. 集計作業はどうであったか

事前に Excel を利用して、班番号と点数を提出された採点表の通りに入力していけば、自動的に集計できるようにしてありましたので、それほど大変ではありませんでした。ただし、Excel としてはかなり高度な機能を使っており、次回以降も誰かが同じようにすることは望み薄です。割り当てに関してもそうです。基本的には IT に頼らなくても良い方法を考えるべきでしょう。

作業は楽でしたが、肝心の採点表の提出が遅れるケースがあり、ぎりぎりの時間までかかることになりました。採点表を、すぐに出さねばならないという意識がなかったようなのです。結局、電話で連絡をして、表を読み上げてもらうことで間に合わせました。事前の説明文書には提出期限や、最後は特に時間通りに出してもらわないと困るという趣旨も明記してあったのですが、読んでいなかったようです。

## 9. プログラム担当者会議はどうであったか

1 回目は参加できなかったのが分からないのですが、その後問題がいくつか出たことを考えると、説明文書にあったことがもれなく説明できていたとはいえないようです。また、最終日の 2 回目には 6 地区しか参加がなく、意識の低さがうかがえます。

担当者会議は、ほとんどプログラムが終了している最終日だけでなく、2 日目の夜ぐらいい、問題点を修正する形で行うべきであったように思います。そのようにすれば、本部スタッフが本番であわてて走り回ることが少なくて済みました。



まとめると、以下のようになりそうです。

- プログラム内容としては有意義であったが、地区により取り組みに温度差がある(野営そのもののやり方の違いか)。
- 受け入れ班数やプログラムの内容など、県から、もっとガイドラインを出すべき。そうしないと参加するスカウトやプログラムを立案する指導者が困る。
- 情報を分かりやすく確実に流し、何度も確認する必要がある。分かっているだろうでは駄目。
- ITに頼らなくてもできる参加申し込み方法や採点方法など、全体的な方法を決めてから、プログラムの立案に落とし込むべき。計画の順番が逆であった。

